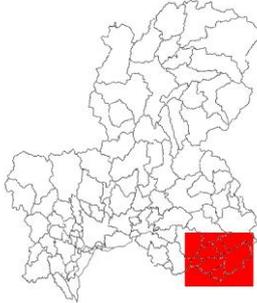


ヤマウツボ	<i>Lathraea japonica</i> Miq.	絶滅危惧 I 類
		ゴマノハグサ科
選定理由	既知の生育地で生育の条件が明らかに悪化しており、個体数が危機的水準まで減少している。	写真(山崎玲子) 
形態の特徴	寄生植物で、全体に白色でやや褐紫色を帯びる多年草。根茎は枝分かれして地中を這う。花茎は高さ13-30cm。葉は下部のものは小さく、上部は次第に大きくなり、心形。花期は5-7月。花茎の上部に穂のような総状花序を出し、長さ12mmほどの白色花を多数開く。	
生態的特徴	やや湿り気のある落葉樹林中に生える。	
分布状況	本州(関東地方以西)、四国、九州、朝鮮(鬱陵島)に分布する。県内では県南の南東部に生育する。	
減少要因	本種の分布域は県南の南東部に限定されており、もともと生育個体数も少ない。また、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	
保全対策	生育地を公表する必要のある場合は、生育場所を特定できることのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。	
特記事項		
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本Ⅲ」平凡社(1982)	

文責:佐藤和良